

【学力向上フロンティアスク - ル用中間報告書】

都道府県名	愛媛県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	松山市立西中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	7	6	7	0	20	39
生徒数	220	204	217	0	641	

研究の概要

1. 研究主題

生徒一人一人に確かな学力を育む教育の推進

2. 研究内容と方法

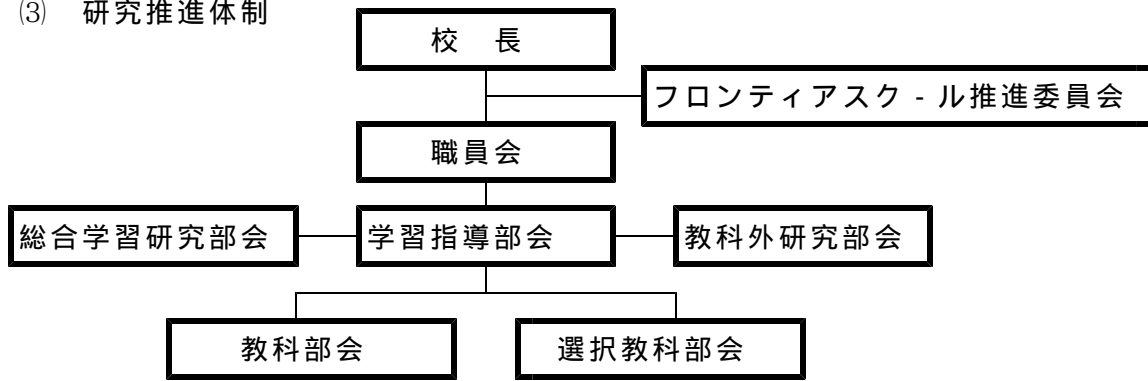
(1) 実施学年・教科

<p>全校生徒・全教科及び総合的な学習の時間、特別活動 これまでの研究の成果と生徒の実態調査の結果から、実施学年・教科等の枠を広げ、全校体制で研究に取り組むため。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テ - マ 基礎・基本の定着を図る指導の工夫 研究の見通し 一人一人のつまづきを把握し、指導方法を工夫して、 (仮 説) きめ細かな指導をすれば、基礎・基本を身につけさせる ことができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 各単元における基礎・基本を確認する。 生徒のつまづきを把握するための評価方法や評価カルテを開発する。 数学科と理科を中心に、少人数授業やT・Tを通して、基礎学力の向 上に効果的な指導のあり方を研究し、実践する。 総合的な学習の時間において、問題解決に必要とされる基礎・基本と は何かを明らかにして、指導のあり方を研究し、実践する。 学力の変容を把握するための評価のあり方を研究し、実践する。</p>
平成15年度	<p>テ - マ 一人一人の意欲と学力を高めるための指導の工夫 研究の見通し 一人一人の興味や能力に応じた指導方法や教材を工夫 すれば学力の向上につながるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 14年度の研究実践を各教科・各領域で共有化する。 生徒の興味・関心を高め、主体的に学習に取り組ませるための指導や 教材を工夫する。</p>
平成16年度	<p>テ - マ 自ら学ぶ力を育て、確かな学力を身につけさせる指導 の工夫 研究の見通し きめ細かな指導により、確実にわかる授業を展開し、 自己の成長や課題を確認させれば、自ら学ぶ力を育て、 確かな学力を身につけさせることができるであろう。</p> <p>研究の内容・方法 14、15年度の研究実践を通して改善の方向をさぐり、研究成果の 定着を図る。 自己の成長や課題を確認させる場を設定し、自己肯定感を感じさせる ような指導の工夫を行う。</p>

(3) 研究推進体制



平成15年度の成果及び今後の課題
 1. 研究の成果
 【国語】2年級が「一人一人の意欲と学力を高めるための指導の工夫」をテーマにした研究発表を行いました。授業の工夫や表現方法、構成や文章の書き方など、具体的な指導計画を見直し、活用した。特に、少人数授業を実施した。授業の工夫や表現方法、構成や文章の書き方など、具体的な指導計画を見直し、活用した。特に、少人数授業を実施した。授業の工夫や表現方法、構成や文章の書き方など、具体的な指導計画を見直し、活用した。特に、少人数授業を実施した。

【社会】2年級が「一人一人の意欲と学力を高めるための指導の工夫」をテーマにした研究発表を行いました。授業の工夫や表現方法、構成や文章の書き方など、具体的な指導計画を見直し、活用した。特に、少人数授業を実施した。授業の工夫や表現方法、構成や文章の書き方など、具体的な指導計画を見直し、活用した。特に、少人数授業を実施した。

【算数】1年級、7年級、毎時間（週3時間）、1学級を2人の教師が担当し、少人数授業を実施した。一人一人の学習の状況に目を届きやすく、特に、生徒の思考過程において基礎的な指導を行ったり、定着など習熟の程度に合わせた指導ができた。また、2・3年の全学級、毎時間（週3時間）、外部講師（学習アシスタント）が担当教師の指導のもと、個別支援を行った。学習の遅れがちな生徒に対して基礎・基本の定着が図られた。

【理科】2年、6年級、毎時間（週3時間）、1学級を2人の教師が担当し、T・Tを行った。生徒の質問に耳を傾けたり、消極的な生徒を支援したりするなど、じっくり生徒に関わる時間が確保された。特に実験においては、技能を確実に習得させることが意欲の向上につながったと考える。

【総合的な学習の時間】主体的な問題解決への態度の育成や生き方の自覚につながるように、1年生から3年生まで系統性を考慮した内容や方法で実施した。特に、1年生は、「地域を知る」というテーマで最終的に地域へ発信するという目標を設定し、活動させた。その結果、目的意識をもった活動となり、資料作成や発表の面で創意工夫が見られるようになった。

資料1 数学科アンケート結果から (対象：1年生全員)

Q1 少人数で学習する授業をどう思いますか？	よい	72.1%
「よい」と答えた理由(上位3項目)		
自分のペースで学習でき、授業がわかりやすい		41.5%
質問や発表しやすい		28.0%
先生にみてもらう回数が多い		23.4%

資料2 理科アンケート結果から (対象：2年生全員)

Q1 毎時間、2人の先生が教える授業をどう思いますか？	よい	59.2%	1人の時と変わらない	38.0%
Q2 学習内容がわかるようになりましたか？	はい	52.4%	1人の時と変わらない	43.3%
Q3 どんな内容がわかるようになりましたか？(文章記述)				
実験の仕方・まとめかた		30.3%		

2. 研究の課題

- 各教科・各領域において、研究実践の定着を図る。
- 各教科・各領域における研究の成果を共有化する。

学力把握のための学校としての取組

1. 学力診断テストの実施(年3回) * 学力向上の検証のため
 2. 生徒・保護者対象アンケート実施(年3回) * 意識の変容を把握するため
- フロンティアスクールとしての研究成果の普及
1. 学力向上地区協議会を通して、研究の成果や方向性等に関して情報交換を行った。
 2. 教科等主任会、各研修会等で、本校の取組を紹介した。
 3. 研究会を開催して、授業研究や研究発表を行うなど本校の取組を紹介する。
- 日時 平成16年10月または11月 場所 松山市立西中学校